

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：畜産研究費

事業名 飛騨牛産肉能力検定事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

畜産研究所 電話番号：0577-68-2226

E-mail：c24509@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 43,890 千円 (前年度予算額：41,668 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	41,668	0	0	0	41,668	0	0	0	0
要求額	43,890	0	0	0	43,890	0	0	0	0
決定額	43,890	0	0	0	43,890	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・「ぎふ農業・農村基本計画」の基本方針「ぎふ農畜水産物のブランド展開」における「輸出の拡大と大都市圏の需要喚起によるブランド力強化」及び「飛騨牛をはじめとする売れる畜産物を支える生産体制の強化」施策
- ・特長ある飛騨牛を生産しブランド力を強化するためには優良種雄牛の造成が必須である。種雄牛の選抜には遺伝的能力を評価する必要がある、このため種雄牛産肉能力直接検定及び後代検定を実施する。

(2) 事業内容

- ・直接検定・・・1年間に種雄牛候補牛10頭を適正に育成管理し、増体量、飼料摂取量、飼料効率及び外貌諸形質を調査して、候補牛の発育能力、飼料利用性を評価する。
- ・後代検定・・・種雄牛候補牛の後代(産子)を肥育管理し、増体量、飼料摂取量、飼料効率及び枝肉成績を調査して、候補牛の産肉能力を間接的に評価する。

(3) 県負担・補助率の考え方

飛騨牛産肉能力開発事業は、県内では畜産研究所のみが行う事業であり、優秀な種雄牛を育てるためには交配を繰り返すなど長い年月を要し、肥育農家の飛騨牛ブランドへの期待は高いことから、県事業として行うことは妥当性がある。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
消耗品費	1,597	診断用の医薬品等
飼料費	12,197	検定用試験牛の飼料
役務費	4,494	遺伝子型検査など各種手数料等
備品購入費	25,602	試験牛の購入
合計	43,890	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/>	新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/>	継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 「飛驒牛」のブランド力強化と安定生産を行うため、継続的な高能力種雄牛の造成を中心に飛驒牛改良を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① 直接検定 (検定牛頭数)		10頭	10頭	10頭	10頭	100%
② 後代検定 (検定セット数)		3セット	3セット	3セット	3セット	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>取組内容</p> <p>事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・枝肉研究会を開催（※コロナ禍で定員を制限） <ul style="list-style-type: none"> R2.11 宗光清 枝肉研究会開催 50名参加 R3. 1 茂勝真 枝肉研究会開催 50名参加 R3. 3 勝辰平 枝肉研究会開催 50名参加 ・後代検定3セットの開始：藤健翔、柊富士、泰山北斗 ・先行交配3セットの実施：勇福平、元景虎、清光平 <p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度に種雄牛3頭（「宗光清」「茂勝真」「勝辰平」）について枝肉成績が判明した。目的どおりの産肉成績が得られた「茂勝真」は12頭の基幹種雄牛に入れることができた。 ・令和3年度中には次の世代の種雄牛候補である「藤健翔」「柊富士」及び「泰山北斗」の枝肉成績が判明する予定であり、飛驒牛ブランドをけん引する次世代の種雄牛の造成が期待される。
-------	--

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>関係者一体となり種雄牛を造成していることから、引き続き県が責任を持って種雄牛造成を担うと共に、「飛驒牛」の特徴の改良が期待できる次世代の種雄牛造成が望まれている。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>これまでに「安福」の後継種雄牛として「花清光」及び「広茂清」などの高能力種雄牛が順調に造成できた。また、現在「花清光」及び「孝隆平」を1代祖に持つ産子が県内子牛市場に多数上場されている。その効果もあり、岐阜県の和牛子牛取引価格は、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言に伴う外食自粛の影響もあり令和2年4～6月は一旦落ち込んだものの、宣言解除後は元の高値の水準にまで持ち直しており、飛驒牛ブランドで取り引きされる枝肉単価も全国平均より高い価格で推移している状況である。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>畜産研究所のみで産肉能力検定を実施するのではなく、県内の繁殖・肥育農家や、市村及び全農・JA等関係各機関の協力も得ながら産肉能力検定を実施している。</p>

(今後の課題)

<p>全国的な子牛の高価格取引状況は継続しており、検定牛の(生産者からの)買取り価格は市場価格に連動して随時見直しを行い、設定してきている。この産肉能力検定事業を円滑に実施していくためにも、適切な買取り価格の設定が必要である。</p>

(次年度の方向性)

<p>県内和牛繁殖農家からは「飛驒牛」の特徴を維持し、また改良が期待出来る種雄牛造成の要望があると共に、安福系雌牛に交配可能な次世代の種雄牛の計画的な造成が期待されている。引き続き畜産振興課担当の「飛驒牛改良推進事業」と連携しながら、種雄牛造成方針に基づいた種雄牛造成を維持・推進する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>【〇〇課】</p>
<p>組み合わせる理由や期待する効果 など</p>	